

### 中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

#### 学校教育目標

『岩崎』のまちとともに未来を拓き 社会に尽くせる人になるために  
やさしい心(徳)  
確かな学力(知・体)  
自主自律の精神(公・開) を身に付けます

#### 教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

○高い「自尊感情」と「自己有用感」をもって生活し、自ら課題解決を進めることのできる力  
(『知識及び技能』『思考力 判断力 表現力』)  
○「互いの違いを認め合う(自由服の精神)」ことのできる力  
(『学びに向かう力 人間性等』)

#### 具体化した資質・能力

○社会とのつながりを意識し、自ら学び、課題を見つける力  
○他者と協働して、様々な場面で自分たちの考えを「発信」できる力  
○互いの違いを認めあい、高い人権意識を有し、自ら責任をもった言動を取る力  
○SDGsを意識し、課題解決に向けて『他者』や『社会』に積極的に働きかけようとする力

#### 中期取組目標

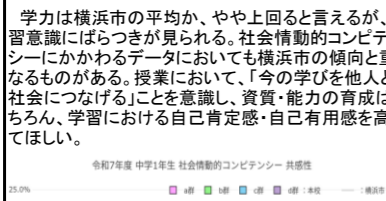
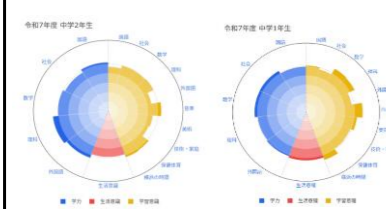
○社会とのつながりを意識し、自ら学び、課題を見つけ、他者と協働して、様々な場面で自分たちの考えを「発信」できる学びを進めていきます。  
・生徒たちが意欲的に取り組み、確かな学力(知識・技能 思考力・判断力・表現力 学びに向かう人間性)が身につく授業の構築。  
・社会とつながり、自らの考えを「伝えあい」「認めあう」授業、行事の推進。  
○互いの違いを認めあい、高い人権意識を有し、自ら責任をもった言動を取ることでできる生徒の育成に努めます。  
・学校教育全般に関して、「自由服の精神」の具現化を進めます。  
○学校・地域・家庭・関係諸機関と連携して、生徒の状況を把握するとともに、生徒の自己肯定感、自己有用感を高め、何事にも安心して臨める気持ちを育みます。  
・個に応じた指導を充実させ、生徒一人ひとりが「価値のある」「必要で」「かけがえのない」ことを実感し、学校を自分らしく過ごせる「場」とします。

### 学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業力向上	①個別最適な学びと協働的な学びの一体化を意識し、「記述」と「発表」や、「紙」と「デジタル」、「個」と「集団」のように、それぞれの特性を生かして併用する学習活動を展開し、学びの充実を図る。②視点を絞って相互の授業見学を行い、授業改善につなげる。
担当	学習指導部・教務部

#### 学力向上に関わる本校の状況

(1)横浜市学力・学習状況調査からの生徒の把握



(2)これまでの学校の取組状況  
・授業改善の推進による学習評価の改善  
・授業研修(校内、小中高連携)の活性化

#### 今年度の目標

『話し合い活動の充実』を軸に  
自分の考えを『もつ力』『伝える力』『聴く力』を育成する授業づくり

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

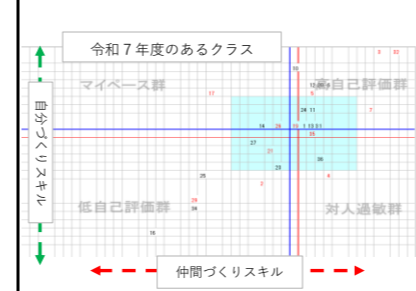
上半期	下半期
①個別最適な学びと協働的な学びの一体化 ◇授業相互見学(校内、中高連携、小中連携)＜6月＞ ◇『話し合い活動の充実』をテーマにした授業研修＜9月＞ ②授業改善 ◇研修会『授業改善の推進による学習評価の改善』＜6月＞ ◇授業評価アンケート＜7月＞ ◇全国学・状結果分析＜8月＞	①個別最適な学びと協働的な学びの一体化 ◇研修や学・状分析、授業評価アンケートを踏まえた単元づくり＜9月から＞ ②授業改善 ◇授業評価アンケート＜12月＞ ◇市学・状結果分析＜12月＞

### 豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育	①『自由服の精神(互いの違いを認め合う)』を基盤とした教育活動を学校全体で展開するとともに、より実践的な人権の授業を実施する。②「平和学習」を3年間教科等横断的な学習の軸とし、2学年校外学習(東京)、3学年修学旅行(長崎)への取組を通して、自分たちが、今後どのように生き、どのような社会をつくっていくのかを考える。
担当	人権教育推進委員会

#### 豊かな心に関わる本校の状況

(1)Y-Pアセスメントシートからの生徒の実態  
高自己評価群の生徒の割合から、学校生活を生き生きと送っている生徒が多いと考えられる。しかし、学級風土チェックと照らし合わせるとともに、年2回のアセスメントにおける変化や、年2回の教育相談活動を活用しながら分析する必要がある。  
また、生徒によっては、自分づくりスキルや仲間づくりスキルを著しく低く評価する場面がある。和やかに生活している場合でも、声かけ等の支援が必要である。



(2)これまでの学校の取組状況  
・「道徳の時間」の充実  
・学校行事を通じての体験活動の充実  
・自分づくり(キャリア)教育の充実

#### 今年度の目標

『自由服の精神』の具現化  
生徒一人ひとりが「価値のある」「必要で」「かけがえのない」ことを実感し、自分らしく過ごせる学校

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

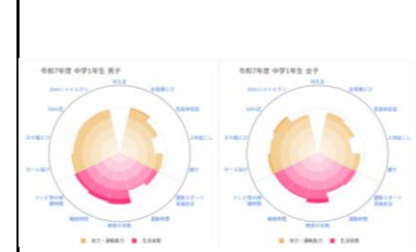
上半期	下半期
①人権教育の充実＜通年＞ ・人権尊重の精神を基盤とし、『自由服の精神』を意識した授業作り ・授業のなかでの子どもの社会的スキル育成 ・道徳の時間を要した教科横断的な道徳教育の実践 ②平和学習について、実践的な学びとして旅行的行事を実施する。＜5月＞ ③誰もが安心して豊かに過ごせる場、自ら進んで課題に取り組む環境づくり ・YPアセスメントの実施＜6月＞と教育相談＜8月＞ ④地域とかかわる行事への参加＜通年＞ ・行事を通じて、保護者や地域とのつながりを密にすることで、自己有用感を高め、社会との関わりに気づけるようにする。	①人権週間に合わせた実践的な授業＜10月＞ ②平和学習について、事前学習＜12月＞ ③誰もが安心して豊かに過ごせる場、自ら進んで課題に取り組む環境づくり ・YPアセスメントの実施＜11月＞と教育相談＜10月＞ ④外部人材を活用したキャリア学習の実践＜1月＞

### 健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①新体力テストの結果をもとに、生徒一人ひとりが目標を定め体づくりを実践できるようにする。②生徒が主体的に心身ともに健康な生活を実践できるよう、外部講師やICTを活用し、学年に応じた保健教育を行う。③危険を予測、回避する力を身につけられるよう、計画的に安全教育を行う。
担当	保健指導部・保健体育科

#### 健やかな体に関わる本校の状況

(1)横浜市学力・学習状況調査からの生徒の把握  
「自主的に運動・スポーツをする時間をもちたいと思いますか。」という質問に、多くの生徒が「そう思う・どちらかといえば、そう思う」と回答しているが、実際の運動時間は市の平均を下回っている。横浜市全体でも、「運動・スポーツする時間をもちたい」とする意識と「睡眠時間」との相関関係が見て取れる。適度な運動を習慣化し、十分な睡眠をとる生活習慣を身につけさせたい。



(2)これまでの学校の取組状況  
・保健体育科での運動・スポーツとの関わり  
・学校保健委員会やPTA保健委員会での健康に関する取組  
・家庭科での食育の充実

#### 今年度の目標

・生涯にわたり、健康で安全な生活を送ることのできる基礎的な能力を培い、体力の向上を目指し、運動する姿勢を身に付けるとともに、教育相談活動等を大切にすることで、心身ともに健やかな成長を促す。

#### 目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
①運動の楽しさを体験する。＜通年＞ ・体づくりや様々なスポーツを通して、生涯にわたって運動に取り組む資質や能力を育成する。(保健体育科) ②学年ごとの計画的な健康教育の実施 ・1学年「骨の健康」＜6月＞ ③避難訓練＜4月、6月、8月＞ ④食育の計画的な実践(家庭科)	①学校保健委員会の実施＜12月＞※PTA保健委員会や地域(校医)、保護者との連携 ②学年ごとの計画的な健康教育の実施 ・2学年「がんについての教育」＜11月＞ ・3学年「折れない心育てる命の授業」＜2月＞ ③避難訓練＜12月＞

